

年 末 市 長 訓 示

平成24年12月28日（金）午後1時

本庁舎8階大会議室A

平成24年の仕事納めに当たり、職員の皆さんにお話しさせていただきます。

本年の仕事始め式におきまして、私は、皆さんに市民の期待や思いに応えるため、「安易な前例踏襲や行政の継続性という言葉に甘えず、市民の皆様が期待していることは何かという視点で仕事に取り組む」ことをお願いしました。

この一年間、様々な分野におきまして、新たな施策の推進や施策の更なる展開が図られており、皆さんが、私の言葉をしっかりと受け止め、取り組んでいただいていることを実感しています。

私は、市民の皆様の負託を受けてから、一切のぶれもなく、皆さんと共に市民の期待に応える市政運営に取り組むことを使命とし、「郷土津市のために尽くす」という確固たる決意をもって全力で進んでまいりました。

この一年間の前進は、これまでと違う市民に寄り添うという原点に立ち返った基礎自治体としての組織風土を、皆さんが築きはじめたからこそ成し得たことであり、この後述べますが、今年の3月の施政方針において、市民の「命を守る」、「心をつなぐ」、「くらしを創る」として発表しました各施策においては、職員が一丸となって仕事に取り組んでいただいたから

こそその結果であり、感謝いたします。

まず、「命を守る」取組におきましては、津市沿岸地域標高マップの全戸配布、津波浸水予測地域内や沿岸部のすべての避難所・一時避難場所60箇所と主要な市道上のカーブミラー164箇所への海拔表示を行い、津波避難に対する市民の意識啓発や地域防災力の向上を図ることができました。

また、新たに津波避難協力ビルの指定にも取り組み、現在6施設の指定により1,748人の避難が可能となりました。津波避難ビルの指定も進み、現在41施設84,433人の避難先が確保されました。

さらに、自主防災会が行う防災活動（ソフト事業）への財政支援、有利な緊急防災・減災事業債を活用した津波避難対策として、香海中学校屋内運動場への外付け階段の設置や施設の耐震化、災害時における物資の調達や供給、情報発信、応援体制に係る企業や団体等との協力協定の締結、小学校への防災機器等の配備など、災害対応力強化集中年間としての実績が着実に積み重ねられています。

また、今年は、台風第4号・第17号が襲来し、人的被害や住家被害、川の護岸や市道の路肩の決壊など本市に深い爪跡を残しましたが、迅速かつ的確に職員一丸となって復旧に向けた取組が進められています。

地域医療につきましては、津市・三重大学・三重県の三者間による協定により、県立一志病院で津地域医療学講座を実施し、医師3名が増員されることとなり、全国に先駆けとなるモデル的な地域医療・救急医療体制の

確立に向け大きく前進することができました。

さらに、本市独自の取組として、津市まちづくり振興基金を活用した子どもの医療費助成の拡充や肺炎の感染及び重症化を予防するための肺炎球菌ワクチンの接種費用の助成も行われています。また、全国的に子どもの通学時における痛ましい事故が相次ぐ中、早急に市内の通学路の総点検を行い、改善に向けた取組も進められています。

次に「心をつなぐ」取組に関して申しますと、今年最も市民の心をつないだのは、吉田沙保里選手の活躍だったと思います。市民の皆様が吉田選手の優勝を願い、全市民が心を一つにして熱いエールを吉田選手に届けたことが、世界大会13連覇、そして国民栄誉賞の受賞に繋がったと思います。

この吉田選手の偉業は、本市にとって本当に誇らしいことであり、市役所をあげて吉田選手の応援に関わる事業に取り組んでいただいたことに感謝申し上げます。

また、対話と連携の推進におきましては、自治会との連絡調整や広聴機能の強化をはじめ、市民からの相談や要望などに対して、「受付後1週間以内に現状を把握し、1ヶ月以内に応答する」というルールづくりも行い、「できるもの」から迅速かつ着実に取り組む「即答・即応し実現する市役所づくり」を目指し、地域の代弁者となる総合支所と本庁との連携強化も図られています。

高齢者福祉におきましては、第6次高齢者福祉計画・第5期介護保険事業計画に基づき、関連事業が円滑に進められています。また、津市まん中老人福祉センターの津センターパレスへの移転が、津市障がい者相談支援センターとともに完了し、利用者から好評を得ています。

シティプロモーションにつきましては、本庁舎1階ロビーを活用して大型スクリーンや液晶モニターを設置し、津市の紹介、観光などのシティプロモーションに関する情報を効果的に発信しているほか、広報津において「シロモチくんとゴーちゃんが語る津市政」の連載を開始するなど、市民に分かりやすい本市のまちづくりに関する情報発信も強化されました。

さらに、オープンディスカッションという市民と共にまちづくりについて考える新たな手法にも取り組み、活発な意見交換が行われる場が創出されています。また、市内の芸能団体から望まれていた練習場を確保するものとして、河芸庁舎施設を改修・開放し、施設の有効活用と本市の文化活動促進のマッチングもできました。

さらに「くらしを創る」取組におきましては、4大プロジェクトとしております「新最終処分場とリサイクルセンター」、「(仮称)津市産業・スポーツセンター」、「新斎場」の整備や「JR名松線の早期全線復旧」に向け、着実に前進しています。

また、産業振興関連におきましても施策が確実に実を結んでおり、国際関連支援の新たなステージを築く欧州機関との提携を実現しました。今年

は新たに6社の企業を誘致し、「創業サポーター ソケッ津」の開設による、起業家支援も展開されております。

さらに、全国的にも被害が深刻化している獣害対策におきましては、個体数の調整や防護柵の設置などのこれまでの取組に加え、獣害対策協議会の推進、ドロップネット等の先進的獣害対策の導入、追い払い隊の配置など、更なる強化が図られました。

ボートレース津では、老朽化したスタンド棟対岸の大型映像装置や館内の映像設備などをリニューアルし、より充実したレース観戦が可能となりました。また、本市の貴重な歴史を伝える香良洲資料館も耐震補強などの改修工事を行い、リニューアルオープンしました。

教育環境の整備におきましては、学校図書館情報システムの導入や全ての市立幼稚園並びに小・中学校への扇風機設置などにより、子どもたちのより良い学びの環境づくりが着々と進みました。また、子どもたちや保護者の方々、地域の方々の御理解と御協力のもと、芸濃地域におけます3つの小学校を一つにし、芸濃小学校として新たなスタートをきることができました。

これらは、この一年間で職員の皆さんが進めていただいた取組の一部ではございますが、安全・安心で暮らしやすいまちづくりと市民に寄り添った市役所づくりに向け、大きく前進できたと思っております。

一年間の業務、大変ご苦労さまでした。「津市のために尽くす」ことを第

一に、皆さんと共に進むことができたことに感謝申し上げます。

今年もあとわずかになりました。年末年始の休暇期間中にもかかわらず職務に従事をしていただく職員の皆さんには誠に御苦労さまですが、よろしく願い申し上げます。

職員の皆さん、そして、御家族にとって、来年が本年にも増してより良い年となりますことをお祈り申し上げます。

ありがとうございました。